2006・No.2　　2006年3月15日発行 (通巻156)

神経科学ニュース

Neuroscience News・Japan Neuroscience Society

〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F
日本神経科学学会
TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0296
E-mail office@jnss.org
http://www.jnss.org

第29回日本神経科学大会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

多数の演題登録をありがとうございました。

なお、**事前参加登録**の締め切りは2006年5月31日正午です

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第29回日本神経科学大会は2006年7月19日から21日まで国立京都国際会館にて開催します。演題登録は2月16日正午に締め切りました。約1,500題の登録をいただいて、盛況な大会になることを感謝いたします。特別講演・シンポジウム・特別企画の演題およびオーガナイザーが決定しておりますのでこの記事の末尾に掲載いたします。詳細については大会ホームページをご覧ください。(http://www.congre.co.jp/neuro2006/)

現在、一般演題の抄録内容の査読とプログラムの編成作業中です。採否の結果、発表日時などを3月末に、筆頭発表者宛にお知らせいたします。

事前参加登録の締め切りは上記の通り、5月31日です。事前参加登録費は、当日参加登録費より正会員で2,000円、学生会員で1,000円お安くなっております。支払いは、郵便振替・コンビニ支払・クレジット決済をご利用いただけます。また、研究成果発表のための大会参加費は科学研究費補助金などによる支払いが可能です。手続きについては所属の事務担当者にご確認ください。お忘れなく事前参加登録を済ませてくださるようご案内いたします。

目　　次

第29回日本神経科学大会 ……1
第68回理事会議事録 ……6
IBRO-APRCの活動 ……15
シンポジウム・研究会のお知らせ ……16
研究助成 ……21
公募 ……22
その他 ……23
編集後記 ……24

++++大会会期中の託児室設置のご案内++++
幼い子供さんのいらっしゃる方にも安心して大会に参加していただけるように、大会会期中は、会場内に託児室を設置します。専門の託児室スタッフとプレイルームもあり、安価な利用代金です。多くの方のご利用を期待してご案内いたします。

大会の運営について会員の皆様からご意見をいただきまして、ありがとうございます。参加者に満足いただける、実り多い大会にするために努力いたします。これからもご提案を歓迎します。大会事務局(neuro2006@congre.co.jp)までお願いいたします。

第29回日本神経科学大会学術プログラムのご案内

【プレナリーレクチャー】

William T Newsome III（Stanford University, USA）
Reward, Value and Decisions: Neural Mechanisms of Decision-Making

Tobias Bonhoeffer（Max-Plank Institute, Germany）
How Activity Changes Synapses in the Mammalian Brain

Lynn T. Landmesser（Case Western Reserve University, USA）
Spontaneous Activity and Motor Circuit Formation

Allan J. Hobson（Harvard University, USA）
Dreaming as an Altered State of Consciousness: A Neurobiological Model

【特別講演】

丹治　順（玉川大学）
Jun Tanji(Tamagawa University)
Frontal Cortex and Higher-Order Motor Control

廣川　信隆（東京大学）
Nobutaka Hirokawa(University of Tokyo)
Neuronal Functions and Molecular Motor, Kinesin Superfamily Proteins, KIFs: Synaptic Proteins and mRNA Transport, Brain Wiring, and Regulation of Higher Brain Function

【シンポジウム】（※テーマとオーガナイザー）

＜分子・回路・シナプス神経科学分野＞

1．記憶研究の新展開：再固定と消去の分子機構
井ノ口　馨（三菱化学生命科学研究所）
喜田　聡（東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科）

2．神経回路形成における細胞認識の特異性
岩里　琢治（理化学研究所脳科学総合研究センター行動遺伝学技術開発チーム）
上村　匡（京都大学大学院生命科学研究科）

3．遺伝子改変動物を用いた脳の高次機能解析
大隅　典子（東北大学大学院医学系研究科）
八木　健（大阪大学大学院生命機能研究科）

4．脳と生殖：生殖の中枢制御機構をめぐる神経生物学
岡　良隆（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻動物科学 生体情報学研究室）
前多　敬一郎（名古屋大学大学院生命農学研究科）

5．神経細胞とシステムに対するホルモン作用：シナプス形成から行動制御まで
河田　光博（京都府立医科大学大学院医学研究科）
筒井　和義（広島大学総合科学部）

6．行動を司る遺伝的基盤の解明に向けて
小出　剛（国立遺伝学研究所マウス開発研究室）
飯野　雄一（東京大学遺伝子実験施設）

7．中枢時計と末梢時計機構に基づく時計遺伝子の多彩な機能
柴田　重信（早稲田大学理工学部）

8. 細胞周期から見た神経変性と癌の統合的戦略
橋本　款(東京都神経科学総合研究所病態代謝化学部門)
井上　聡（東京大学大学院医学研究科加齢医学）

9. 神経栄養因子の神経保護・再生・神経新生促進機能と今後の展望
船越　洋（大阪大学大学院医学系研究科分子再生医学）
武井　延之（新潟大学脳研究所分子神経生物学）

10. 感覚器の発生メカニズムの最前線
古川　貴久（大阪バイオサイエンス研究所第4研究部門　研究部長）
渡辺　すみ子（東京大学医科学研究所）

11. 神経系における特異的遺伝子発現方法を求めて―ウイルスベクターを用いた神経研究の新しい可能性
柚崎　通介（慶應義塾大学医学部生理学）
平井　宏和（金沢大学学際科学実験センター革新脳科学）

12. 分子イメージングの展望：基礎の成果を臨床へ
米倉　義晴（福井大学高エネルギー医学研究センター）

13. 大脳皮質の局所神経回路
窪田　芳之（自然科学研究機構生理学研究所大脳神経回路論）
吉村　由美子（名古屋大学環境医学研究所視覚神経科学）

14. 神経軸索の伸長とガイダンスメカニズム
五嶋　良郎（横浜市立大学医学部分子薬理神経生物学）
貝淵　弘三（名古屋大学医学部）

15. 脊椎動物と無脊椎動物に見られる神経系の再生
玉巻　伸章（熊本大学大学院医学薬学研究部脳回路構造学）
久恒　辰博（東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻）

16. ニューロン・グリア回路網による情報処理
―細胞の機能から回路の機能へ―
坪川　宏（東北大学大学院情報科学研究科）
宮川　博義(東京薬科大学生命科学部脳神経機能学研究室)

17. 脳の基本構造の形成と神経細胞移動
仲嶋　一範（慶應義塾大学医学部解剖学教室）
村上　富士夫（大阪大学生命機能研究科脳神経工学講座）

18. 発達および回復期における神経回路機能の再編成
鍋倉　淳一（生理学研究所）
加藤　宏之（国際医療福祉大学臨床医学研究センター）

19. GABA性シナプス伝達の制御機構
平野　丈夫（京都大学理学研究科生物物理学教室）

20. Dendritic Spineにおけるシグナル伝達 －１分子・１シナプスの動態－
松崎　政紀（東京大学大学院医学系研究科/科学技術振興機構さきがけ研究）

21. プレシナプス研究最前線 蛋白分子と生理機能
持田　澄子（東京医科大学）

＜システム神経科学分野＞

1. 運動関連皮質と脊髄の進化と可塑性

伊佐　正（自然科学研究機構生理学研究所）
大木　紫（杏林大学統合生理）

2．脳辺縁系‐視床下部‐脳幹部の構造・機能連関の探究―認知、記憶から情動まで
井樋　慶一（東北大学大学院情報科学研究科情報生物学）
柳川　右千夫（群馬大学大学院医学系研究科遺伝発達行動学分野）

3．脳機能研究における倫理的フロンティア
Judy Illes （Program in Neuroethics, Center for Bioethics and Department of Radiology, Stanford University）
佐倉　統（東京大学大学院情報学環 / 科学技術振興機構社会技術研究開発センター）
福士　珠美（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター）

4．ｆMRIを中心とした脳機能イメージングの新戦略
坂井　克之（東京大学大学院医学系研究科）

5．視覚的動き・色・形の中枢処理
田中　啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)

6．温度受容・体温調節の分子機構
富永　真琴（自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター細胞生理部門）
杉本　幸彦（京都大学大学院薬学研究科生体情報制御学分野）

7．定位脳手術の新展開：基礎と臨床の融合をめざして
南部　篤（生理学研究所）
高田　昌彦（東京都神経科学総合研究所）

8．拡散強調画像の現状とこれからの展開
福山　秀直（京都大学医学研究科附属高次脳機能総合研究センター）

9．血圧を調節する脳機能解明に向けて～新しいストラテジー～
前田　正信（和歌山県立医科大学第二生理学）
上田　陽一（産業医科大学医学部第一生理学）

10．認識と行為
Roger Lemon（Institute of Neurology, University College London, UK）
入來　篤史（理化学研究所脳科学総合研究センター）

11．脳機能光イメージングによる脳機能計測の利点と問題点
渡辺英寿（日本光脳機能イメージング研究会）
酒谷　薫（日本光脳機能イメージング研究会）

12．ヘッブの細胞集成体，シナプス可塑性仮説の新たな展開
渡邊　正孝（東京都神経科学総合研究所）
櫻井　芳雄（京都大学）

＜理論神経科学分野＞

1．スパイクに基づく情報表現と計算
深井朋樹（理化学研究所脳科学総合センター）
加藤　英之（理化学研究所脳科学総合研究センター）

＜臨床神経科学分野＞

1．ミクログリアと中枢神経病変
秋山　治彦（東京都精神医学総合研究所）

2．環境に起因する神経変性疾患
石堂　正美（独立行政法人 国立環境研究所）

増尾　好則（独立行政法人 産業総合技術研究所）

3．高次視覚機能の病態・機構・再生
河村　満（昭和大学医学部神経内科）

4．精神神経疾患の病因解明を目ざす神経栄養因子研究の最前線
功刀　浩（国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第三部）
小島　正己（産業技術総合研究所セルエンジニアリング研究部門）

5．Epigenetic Neuroscience -From biological basis to diseases-
久保田　健夫（山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝医学講座）
中島　欽一（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 分子神経分化制御学講座）

6. 甲状腺ホルモン系と脳発達 ―環境影響から気分障害まで―
鯉淵　典之（群馬大学大学院医学系研究科器官機能学分野）
加藤　進昌（東京大学大学院医学系研究科臨床神経精神医学）

7．不随意運動の臨床神経生理
柴崎　浩（武田総合病院／京都大学名誉教授）

8．パーキンソン病研究の最前線：システムから分子まで
高橋　良輔（京都大学医学研究科脳病態生理学講座臨床神経学）
高橋　淳（京都大学医学研究科脳神経外科）

9．神経細胞機能とポリグルタミン移送
辻　省次（東京大学神経内科学）

10. 軸索とミエリンのクロストーク
中川　正法（京都府立医科大学大学院医学研究科神経病態制御学）
山下　俊英（千葉大学大学院医学研究院神経生物学）

11. 発達障害の脳科学
伏木　信次（京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学）

12. てんかん発作発現前の脳可塑性変化とてんかん原性
村島　善也（東京都精神医学総合研究所精神生物学部門）

13. 脳虚血と再生医学
吉峰　俊樹（大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学講座）

【テクニカルセミナー】（※テーマとオーガナイザー）
1．MRIと他の指標の同時計測
宮内　哲（情報通信研究機構(NICT)関西先端研究センター脳情報グループ）

【特別企画】（※テーマとオーガナイザー）
1．脳科学の研究費を考える：研究費はどのように決められ、どのように使われるべきか
河田　光博（京都府立医科大学大学院医学研究科）
津本　忠治（理化学研究所脳科学総合研究センター）

2．神経科学における男女共同参画はどうあるべきか
平田　たつみ（総合研究大学院大学・国立遺伝学研究所　脳機能研究部門）
小田　洋一（名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻）

第68回理事会議事録

日時、2006年1月28日（土） 14時―19時
場所、学士会館赤門分館　８号室
出席、津本忠治会長、宮下保司庶務理事・大会理事(2005年) 、森憲作会計理事、狩野方伸広報担当理事、木村實大会理事(2006年)、伊佐正、岡野栄之、小野武年、金子武嗣、加藤進昌、高橋智幸、田中啓治、西川徹、貫名信行、真鍋俊也、大隅典子、藤田一郎、八木健各理事

欠席、入來篤史、大森治紀、岡本仁、小澤瀞司、川人光男、桐野高明、小泉英明、祖父江元各理事

報告 事項
1. 庶務報告:　宮下庶務理事より2006年1月23日時点での会員構成の状況が報告された（資料1）（新入会員名は資料2参照)。前回の理事会時より約100名の新入会員を迎えたが、退会者が正会員150 名、学生会員42名、さらに会費未納で期限切れ会員が172名にのぼったたことから、会員総数は約4,300人となった。今後、2006年大会の参加を契機として会員の増加が見込めることが報告された。

2. 会計報告:　森会計理事より2005年1月1日～12月31日までの会計報告（資料3）がなされた。今年7月に開催された第28回大会の黒字分を海外若手招聘基金積立金として、今後の大会におけるTravel Awardのために使用する企画が報告された。また、2005年度会計監査が、小幡邦彦会計監事、貴邑冨久子会計監事立会いのもとに行われ承認されたことが報告された。

3. 委員会報告: 各委員より、委員会報告があり、1) 執行委員会:　1月14日に開催された執行委員会について、津本会長より報告があった(議題は理事会と重複するため内容は省略)。2) 広報委員会:　狩野理事(広報委員会委員長)より、神経科学ニュース、ホームページの現況についての報告があった。また、お知らせメール（学会より会員へのメールマガジン）案があり、現在、検討中であることが報告された。3) 対外広報小委員会:　入來理事（対外広報小委員会委員長）に代わり津本会長より、神経科学学会の研究成果を広く一般社会に発信するために、本大会では規約に基づいて報道発表（プレスリリース）を行うとともに、大会への報道関係者の取材を積極的に支援することを計画している旨の報告があった。4) 動物実験・倫理委員会:　伊佐理事（動物実験・倫理委員会委員長）より、環境省所管の動物実験指針の改正があった旨等の説明があった。5) 将来計画委員会:　金子理事より、大会の国際化についても将来計画委員会で検討する旨の報告があった。6) 研究体制委員会:　大隅理事より、生物科学連合および男女共同参画について報告があった。7) 精神神経学会専門医制度得点への認定申請:　津本会長より、日本精神神経学会の専門医制度得点への認定学会としての申請をしたことが報告された。8) 国際生物学オリンピック日本委員会について:　宮下庶務理事より、生物科学連合宛で国際生物学オリンピック日本委員会より、将来的に日本組織委員会への参加依頼が届いたが、現在の段階ではすぐには参加しない意向である旨が報告された。

4. 第28回大会報告:　宮下第28回大会大会長より、第28回大会の報告があった。また、大会会計について公認会計士による監査が終了したとの報告があった。

5. 第29回大会準備報告：木村第29回大会大会長より、準備状況が報告された。28回大会の成果を受け継ぐと共に、幾つかの新しい試みを取り入れることによって、演題発表・参加者が多く、レベルの高い大会をめざして準備を進めている。大会の国際化のために、シンポジウムに国外からの講演者を加えることを強く推奨したこと、アジア諸国を中心とする若く活発な研究者の演題発表と交流を促進するトラベルアワードを充実したこと、臨床神経科学者の参加をための具体的な方策を検討したこと、新しいプログラム抄録検索システムの導入等について報告があった。

6. 第30回大会準備報告:　田中第30回大会長より、準備状況の報告があった。会場はパシフィコ横浜で、2007年9月10日から12日まで、日本神経化学会、日本神経回路学会との合同大会として開催する。プレナリー講演者や、重点項目の説明および準備状況等についても報告された。また、合同大会を開催するにあたり、他の2学会との協調に関して日本神経科学学会としての基本姿勢について討議された。

7. 第31回大会開催報告:　岡野第31回大会長より、2008年7月9日～11日まで東京国際フォーラムにて開催予定の旨の報告があった。

8.Neuroscience Research 関係：津本忠治NSR編集主幹より以下の報告がなされた。
1）2005年1月より12月末までの投稿数は1年間で355篇。入稿原稿の56.9%は海外から。採択率は約40%であり、昨年よりさらに低下傾向にある。但し、海外よりの原稿は採択率が低く、国内よりの原稿は高い傾向がある。
2）2005年度NSRの会計は、事務所立ち上げのために経費がかさんだが支障なく終了し、2006年の予算は、日本学術振興会よりの助成が例年どおり得られれば、問題はなさそうであることが報告された。

9. Federation of Asian-Oceanian Neuroscience Societies（FAONS）関係報告:　藤田理事よりInternational Brain Research Organization (IBRO)/Asian-Pacific Regional Committee (APRC)の主催するIBRO Schoolについて報告があった。

10. IBRO関係:　欠席の岡本理事に代わり津本会長より、現在のIBRO-APRCの活動報告がされた。

11. 協賛など:　日本神経科学学会が協賛・後援をした会合等について報告された。

審議事項
1. 2006年会計予算案:　2006年度会計予算案が審議され承認された。（資料4）

2. 次期Neuroscience Research 編集主幹（2006年9月―2009年8月）について:　この問題について執行委員会から、編集主幹サーチ委員会の案をもとに以下のような案が提案された：現編集主幹の任期が2006年8月で切れるが、現編集主幹にもう一期依頼する。現編集主幹の要望を勘案し、再任はこれで最後とする。編集主幹を補佐する副編集主幹を田中啓治理事に依頼する。この案が討議の結果、承認された。

3. 会則変更について:　会則の付則部分の変更（パネルおよび、外国人会員の入会金と会費について）に関して、審議された。会則変更となるので、7月の大会時に開催される総会に諮る。（資料5）

理事会風景

4. 日本神経科学学会奨励賞選考細則の再見直しについて:　日本神経科学学会奨励賞規定の再変更に関して、審議の結果、再変更案が承認された。(資料６)

5．科研費審査員候補の情報提供について:　日本学術会議を通して、日本学術振興会より科学研究費補助金（基盤研究等）の審査委員候補者の情報提供の協力依頼があった。従来のような候補者の推薦ではなく、日本学術振興会が作るデータベースへの情報提供であること、及び締切りまでの日時が非常に短いこと等を考慮して、今回は理事会で候補者を選定する案が審議され承認された。

6．法人化調査委員会の立ち上げ:　日本神経科学学会を法人化することの是非について調査するために、調査委員会を設置し、委員長は藤田一郎理事、委員は金子武嗣理事、入来篤史理事とすることが、決定された。

7．第32回大会について:　伊佐第32回大会長より、2009年に国際生理学会が京都で開催されることを考慮にいれ、同じ会場である京都国際会議場で2009年7月24－26日に開催することが提案され承認された。

8. IBRO Secretary Generalの投票、及びIBRO/APRC委員について:　本年末でIBRO Secretary Generalの任期の切れるJenniffer Lund教授の後任についてIBROの推薦委員会より候補が提案されているが、この提案への対応について討議した。その結果、対応は会長に一任となった。
IBRO/APRCの現委員である岡本仁理事の任期が切れるが、岡本理事に再任していただく方向でIBROに働きかけることが執行委員会から提案され、承認された。

資料１

日本神経科学学会会員構成

（2006年1月23日）

	正会員	学生会員
1　分子・細胞神経科学	1878（30）	187(21)
2　システム神経科学	1419（15）	177(27)
3　臨床・病態神経科学	473（8）	22(4)
4　パネル不明	78(2)	7（2）
合計	3848(55)	393(54)
外国人会員	25	
賛助会員(１)	2	
賛助会員(２)	14	
名誉会員(名誉会長を含む)	14	
全会員数	4,296	

（)内は新会員

退会　正会員150 名　学生会員42名
　　賛助会員(１)1件　賛助会員(２)1件
　　合計　194

期限切れ会員　正会員　　172名
異動　正会員→学生会員　4名
異動　学生会員→正会員　199名

資料２

新会員リスト

正会員
パネル1、分子・細胞神経科学　　30名
貝淵　弘三　　名古屋大学大学院医学系研究科
飯野　雄一　　東京大学遺伝子実験施設
池田　裕美子　日本医科大学　薬理学
井上　明宏　　東京医科歯科大学大学院　医歯

学総合研究科　細胞生物学
大西　哲生　理化学研究所 脳科学総合研究センター
岡本　賢一　MIT,The Picower Institute for Learning and Memory,Brain and Cognitive Sciences
桂林　秀太郎　Baylor College of Medicine
加藤　健一　群馬大学大学院　医学系研究科 高次細胞機能学
河田　亮　神奈川歯科大学人体構造学講座
國本　正子　国立精神・神経センター神経研究所
久原　篤　名古屋大学　大学院理学研究科
齋藤　直人　東京大学医学部大学院医学系研究科
坂井　敦　日本医科大学 薬理学教室
三川　浩輝　奥羽大学薬学部
鈴木　道雄　富山大学医学部精神神経医学教室
竹内　英之　名古屋大学　環境医学研究所
舘野　高　大阪大学大学院基礎工学研究科
津田　雅之　獨協医科大学 生理学（生体情報）
野崎　直仁　神奈川歯科大学 生体機能学
廣田　ゆき　慶應義塾大学 医学部
堀　哲也　東京大学医学部大学院医学系研究科
松本　真知子　北海道大学　医学部　神経薬理
宮澤　淳夫　独立行政法人理化学研究所放射光科学総合研究センター
森　郁恵　名古屋大学　大学院理学研究科
諸根　信弘　国立精神・神経センター神経研究所微細構造研究部
山内　淳司　国立成育医療センター研究所 薬剤治療研究部
山口　真二　帝京大学薬学部医療薬学第 I 講座病態生化学教室
山田　麻紀　東京大学大学院薬学系研究科
山中　康成　京都大学大学院医学研究科
Alexey Semyanov　理化学研究所脳科学総合研究センター　神経回路メカニズム研究グループ

パネル２、システム神経科学　　15 名

岡田　知明　東京慈恵会医科大学解剖学講座 第 1
加藤　英之　理化学研究所脳科学総合研究センター　脳回路機能理論研究チーム
小林　哲生　京都大学大学院工学研究科
今野　幸太郎　北海道大学　医学研究科　神経薬理学
酒谷　誠一　理化学研究所脳科学総合研究センター　神経回路メカニズム研究グループ
佐々木　寛　玉川大学学術研究所
沼田　憲治　昭和大学保健医療学部　理学療法学科
平瀬　肇　理化学研究所脳科学総合研究センター　神経回路メカニズム研究グループ
舟生　勇人　山形大学大学院医学系研究科
松崎　広和　北海道医療大学薬学部
三崎　将也　情報通信研究機構　関西先端研究センター
村岡　哲郎　早稲田大学　スポーツ科学部
山崎　岳　広島大学 総合科学部
渡辺　大　（財）大阪バイオサイエンス研究所 システムズ生物学部門
Allan Gulledge　自然科学研究機構生理学研究所 大脳神経回路論研究部門

パネル３、臨床・病態神経科学　　8 名

木下　彩栄　京都大学　医学部
阿部　賢志　奥羽大学　薬学部
小柳　清光　東京都神経科学総合研究所 運動・感覚システム研究分野
倉知　正佳　富山医科薬科大学　医学部
佐々木　祐典　Department of Neurology, Center for Neuroscience and Regeneration Research,Yale University School of Medicine
福山　誠介　医療法人厚生会　木沢記念病院
牧田　圭弘　旭川医科大学 第一内科
結城　伸泰　獨協医科大学 神経内科

パネル不明　2 名

佐倉　統　東京大学大学院
黒河　佳香　独立行政法人国立環境研究所環境健康研究領域生体防御研究室

学生会員

パネル１、分子・細胞神経科学　21名

石田　綾　慶應義塾大学　医学部
美濃部　さやか　三重大学医学部　神経再生医学細胞情報学
五十嵐　真奈　慶應義塾大学　医学部
石井　聖二　慶應義塾大学　医学部
石川　充　富山大学薬学部
伊藤　圭祐　国立遺伝学研究所　脳機能研究部門
梅津　大輝　東京大学分子細胞生物学研究所
浦井　久子　大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科
大久保　玲子　三菱化学生命科学研究所
小川　静香　東北大学大学院医学系研究科
四宮　和範　東京大学分子細胞生物学研究所
関口　真理子　岡山大学大学院医歯学総合研究科
高橋　阿貴　国立遺伝学研究所マウス開発研究室
服部　裕次郎　慶應義塾大学　医学部
堀井　陽一郎　奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
松尾　理子　アステラス製薬（株）分子医学研究所ゲノム機能解析研究室
松島　加代子　近畿大学薬学部 生物化学研究室
水野　秀信　京都大学大学院 理学研究科
村上　公一　旭川医科大学　医学部医学科
横山　健　東京大学大学院医学系研究科
SHANTANU SUR　理化学研究所脳科学総合研究センター　記憶学習機構研究チーム

パネル２、システム神経科学　27人

新井　佐和子　金沢大学薬学部病院薬学研究室
石田　紹敬　大阪大学大学院生命機能研究科
大西　憲幸　名古屋大学　大学院理学研究科
大村　優　北海道大学　医学研究科
角　友起　筑波大学大学院　人間総合科学研究科
川上　大輔　大阪大学大学院医学系研究科生体生理医学専攻・細胞神経科学
小関　裕代　北海道大学　医学部
児玉　英志　名古屋大学　大学院理学研究科
兒玉　直紀　岡山大学　大学院医歯薬学総合研究科
今野　仁子　筑波大学大学院　人間総合科学研究科
佐々木　秀一　筑波大学　人間総合科学研究科基礎医学系生理
紫野　正人　群馬大学大学院医学系研究科
篠崎　淳　京都大学　医学研究科附属高次脳機能総合研究センター
高垣　堅太郎　Georgetown University School of Medicine,MD/PhD Program
田中　伸幸　日本医科大学　医学部
谷澤　欣則　名古屋大学　大学院理学研究科
近久　幸子　徳島大学　大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
豊田　善隆　大阪大学大学院生命機能研究科
中川　直　筑波大学人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻
中畑　義久　東京国際大学　人間社会学部
西尾　奈々　名古屋大学　大学院理学研究科
新田　統昭　京都大学大学院　人間・環境学研究科共生人間学専攻
廣川　純也　基礎生物学研究所
宮良　晶子　名古屋大学　大学院理学研究科
村松　憲　東京医科歯科大学　保健衛生学研究科
百々　佳菜子　東京大学大学院総合文化研究科
吉田　郁恵　東京大学　医学系研究科

パネル３、臨床・病態神経科学　4人

古寺　美加　自治医科大学　神経内科
實藤　雅文　九州大学医学部小児科
安永　佳代子　東京医科歯科大学　医歯学総合研究科
山下　伸　久留米大学医学部　生理学講座統合自律機能部門

パネル不明　2人
佐藤　尚　東京大学大学院 情報理工学系研究科
谷口　徳恭　東京大学大学院 医学系研究科

資料3

2005年度日本神経科学学会会計

（2005年1月1日～2005年12月31日）

		予算	予算修正	決算	備考
収入	前年度繰越金	6,625,263	6,625,263	6,625,263	
	会員入会金	900,000	900,000	1,206,000	2005年入会者数 443人
	正会員年会費	31,338,900	31,338,900	31,273,500	2005年12月末会員数 3640人納入率80%及び滞納会費回収分
	学生会員年会費	1,082,700	1,082,700	1,798,500	2005年12月末会員数570人納入率90%及び滞納会費回収分
	賛助会員年会費3万	81,000	81,000	90,000	2005年12月末会員数 3件
	賛助会員年会費10万	1,350,000	1,350,000	1,400,000	2005年12月末会員数 14件
	年会費前受金			98,000	
	預金利息	10	10	31	
	広告料	900,000	900,000	915,000	
	NSR編集室より管理費		1,125,000	1,125,000	125,000円×9
	雑収入	0		385,307	1)
収入計		42,277,873	43,402,873	44,916,601	
支出	1,事業費				
	ニュース印刷費	2,400,000	2,400,000	2,030,814	2005.NO1～NO６
	ニュース発送費	3,300,000	3,300,000	3,056,399	2005.NO1～NO６
	大会補助金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	第29回大会へ
	NSR補助金	2,500,000	2,500,000	2,500,000	
	奨励賞賞金	400,000	400,000	400,000	
	優秀論文賞賞金	600,000	600,000	600,000	
	Travel Award賞金	1,000,000	1,000,000	0	
	会費分担金	2,100,000	2,100,000	1,405,591	2)
	学術活動支援費	700,000	700,000	200,000	生理研トレーニングコース支払済
	国際交流費	100,000	100,000	0	講師派遣、IBRO関係理事会出席
	調査宣伝費	350,000	350,000	400,000	弁護士顧問料、その他
	その他				
	2,管理費				
	事務員業務委託費	6,000,000	11,500,000	7,349,356	フルタイム2人　パート1人
	保険・税金			2,022,701	社会保険等
	会議費	500,000	500,000	250,454	理事会等
	通信費	2,000,000	2,000,000	526,251	振込み手数料カード引落し手数料含む
	旅費・交通費	900,000	900,000	797,900	
	印刷費	100,000	100,000	243,226	
	備品・消耗品費	350,000	350,000	289,931	
	事務室借料	2,951,025	2,951,025	2,656,500	
	電話・光熱料	300,000	300,000	394,420	
	レンタル料	700,000	700,000	672,202	3)
	雑費	0	0	207,390	4)
	3,その他				
	事業費積立金	250,000	250,000	250,000	5)
	海外若手招聘基金積立金			2,200,000	
	大会抄録集制作発送費	1,200,000	1,200,000	0	
	ホームページ管理費			1,729,654	ホームページリニューアル等
	予備費	11,576,848	7,201,848	12,733,812	
	支出計	42,277,873	43,402,873	44,916,601	

1) 事務センターからの払い戻し金209,648円　移転による払い戻し金125,289円　誤入金など
2) IBRO(2004年度分)　FAONS(2005年度分担金2$×正会員数)　生物科学学会連合分担金
3) FAXコピー機レンタル料　ネット接続料　ドメイン使用料　貸し金庫使用料金
4) 講習会費用40,000円　英文校閲2,835円　クレジット手数料等を含む30,400円　会費2重払い返金等
5) 事業費積立金 5,837,306円（合計　2005年12月末現在）

資料4

2006年度日本神経科学学会会計予算案

（2006年1月1日～2006年12月31日）

		予算	備考
収入	前年度繰越金	12,733,812	
	会員入会金	1,050,000	2006年入会見込数350人
	正会員年会費	31,270,000	2005年実績に基づく
	学生会員年会費	1,790,000	2005年実績に基づく
	賛助会員年会費3万	60,000	
	賛助会員年会費10万	1,400,000	
	預金利息	20	
	広告料	1,140,000	
	NSR編集室より管理費	1,500,000	125,000円×12
	2005年大会より返金	2,000,000	
	2005年大会より寄付	1,600,000	
	雑収入	300,000	2005年大会への一時貸付金の返金
収入計		54,843,832	
支出	1,事業費		
	ニュース印刷費	2,400,000	2006.NO1～NO6
	ニュース発送費	3,500,000	2006.NO1～NO6
	大会補助金	2,000,000	第30回大会へ
	NSR補助金	2,500,000	
	奨励賞賞金	400,000	
	優秀論文賞賞金	600,000	
	Travel Award賞金	1,000,000	
	大会抄録集制作発送費	1,200,000	
	会費分担金	1,989,000	1)
	学術活動支援費	500,000	生理研トレーニングコース支払済
	国際交流費	100,000	講師派遣、IBRO関係理事会出席
	調査宣伝費	500,000	弁護士顧問料、その他
	2,管理費		
	事務員業務委託費	16,000,000	フルタイム2人　パート1人(社会保険等を含む)
	会議費	300,000	理事会、その他委員会会議費
	通信費	1,000,000	
	旅費・交通費	1,000,000	
	印刷費	400,000	
	備品・消耗品費	500,000	
	事務室借料	2,790,900	232,575円×12
	ホームページ管理費	2,000,000	ホームページリニューアル等
	電話・光熱料	700,000	
	レンタル料	750,000	FAXコピー機レンタル料・ネット接続料等
	入金手数料	150,000	クレジットカード手数料など
	雑費	50,000	
	3,その他		
	事業費積立金	250,000	2)
	海外若手招聘基金積立	3,600,000	3)
	予備費	8,663,932	
	支出計	54,843,832	

1)IBRO(2005年,2006年度分担金4.000＄×2)　FAONS(2005年度分担金2$×正会員数)　生物科学学会連合分担金

2)事業費積立金 5,837,306円

3)海外若手招聘基金積立金2,200,000円

資料5

会則改正箇所の抜粋

付 則

一 入会金は3000円、会費は正会員、外国人会員を年間9000円、学生会員を年間3000円とする。ただし外国人会員においては、**年次大会に筆頭発表者として参加するとの**申し出により入会金**を免除し、~~および会費を減免することができる~~更に入会年度を含めて3年間は会費を免除することができる。**

二 正会員は~~左~~**下**に記す~~三~~ **4**つのパネルの何れかに属するものとする。
1.分子・細胞神経科学、 2.システム神経科学、
3.臨床・病態神経科学 **4. その他**

三 パネル理事定員は15名とし、その内それぞれ2名を**1から3の**各パネルに割り当て、残り9名を**1から4の**パネルに所属する正会員の数（選挙の年の4月1日現在）に比例して按分する。**按分に際しては四捨五入法を用いる。**

四 理事会は下記の常置委員会を設置し、必要に応じて適宜、専門委員会を設ける。委員の任期は3年とし、連続の再任は2期までとする。

（常置委員会）

一 執行委員会 学会長を委員長とし、学会長、大会理事、庶務担当理事、会計担当理事で構成し、必要に応じて各種常置委員会の委員長を加える。
執行委員会は日本神経科学大会を除く学会の諸活動を策定し、理事会に提案する。

二 指名委員会（定員6名） 学会長を委員長とし、パネル理事と学会長の互選により委員を選出する。パネル理事の候補（定員の2倍以上）と推薦理事、各種委員会委員および科学研究費~~審査会委員~~ **に関する**候補を理事会に推薦する。

三 選挙管理委員会（定員3名） パネル理事、科学研究費審査会委員などの選出に関わる全ての選挙管理を行う。

四 プログラム委員会 ~~(定員12名)~~ 大会長を委員長とし、委員には前および次期大会長を加える。委員長は必要に応じて委員を追加することができる。大会のプログラムを策定する。

五 広報委員会 ~~(定員6名)~~ 会報、機関誌出版、その他の広報活動を策定し、実施する。

六 将来計画委員会 ~~(定員10名)~~ 神経科学の発展に必要とされるさまざまな施策を策定する。

七 Neuroscience Research委員会 学会機関誌Neuroscience Researchの編集・出版を管掌する。委員の選出、活動はNeuroscience Research委員会の内規による。

資料6

日本神経科学学会奨励賞規定

(目的)

日本神経科学学会は、顕著な研究業績を有するとともに、将来日本神経科学学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として日本神経科学学会奨励賞(以下、奨励賞という)を設ける。奨励賞の英文表記は、Japan Neuroscience Society Young Investigator Awardとする。

(対象)

1) 3年以上の会員歴を有す~~す~~**し、**~~る満37歳以下の~~ **学位取得後10年以内の**日本神経科学学会の会員を対象とする。

2) 受賞候補者は、原則として単名とする。

(選考)

1) 選考は公募による。

2) 応募者の中から毎年5名以下を選考する。

3) 奨励賞の選考は、奨励賞選考委員会が行う。選考委員会の構成は細則で定める。

(表彰)

日本神経科学学会大会において受賞者を表彰し、賞状及び副賞を贈呈する。

(受賞内容の発表)

受賞者は、受賞研究内容を「Neuroscience Research」誌に総説として発表する。

(改正)

本規定の改廃は日本神経科学学会理事会で行う。本則は平成13年4月1日より施行するものとする。

(改訂)なお、本規定は平成１８年1月２８日に改正された。

日本神経科学学会奨励賞選考細則

(選考の対象)

奨励賞は個々の論文を対象とするものではない。申請者の研究実績、研究構想と発展性を評価して選考する。対象となる研究~~が実際に行われた場が日本国内・国外であることは問わない。応募者の主導により研究が展開された事を重視する~~ **の主たる部分は日本国内で行われたものであることが望ましいが、外国で進められた研究であっても応募者の主導による場合は検討の対象とする。選考に際しては、応募者の主導により研究が展開されたことを重視する。**

(会員歴)

1) 学生会員であった期間は会員歴に含まれる。

2) 会費の納入が無かった期間は含まれない。

(選考委員会)

1) 選考委員会は8名(委員長を含む)で構成する。

2) 選考委員の任期は4年とする。

3) 2年ごとに半数の委員が交代するものとする。

4) 委員は、交代後2年間は再任しないものとする。

5) 選考委員は指名委員会が指名し、理事会での承認を必要とする。

6) 選考委員会委員長は、各年度ごとに、委員の互選により選出する。委員長の重任はしないものとする。

7) 選考結果発表までは、選考委員の氏名は公表しない。

(選考)

1) 選考委員は、応募のあった候補者が直接の研究指導を受けているか、または研究指導にあたった期間から3年以上経過していない場合には、当該候補者に関する採点・評価には加わらないものとする。

2) 選考実施の細目は申請件数、内容などに応じて選考委員会で検討する。

(応募)

1) 応募者は申請書(所定の様式に従い、日本神経科学学会会員(学生会員、賛助会員を除く)による推薦のあるもの)、履歴書、主要業績リスト、申請課題に関する800字以内の抄録、申請課題に関連した論文(3編以内)の別刷(印刷中の論文については写し)各10部を選考委員会に提出する。

2) 応募者の~~年齢は~~**学位取得後の年数は**当該年の１２月末日のものとする。

3) 公募の締切りは毎年5月31日以前とし、選考委員会で定めた日をその年の神経科学ニュースと学会ホームページに掲載する。

(副賞の金額)

当分の間1件10万円とするが、状況により理事会の承認を得て改訂することができる。

(附則)

本則を平成13年4月1日より施行するにあたり、委員の半数は任期1年、他は任期2年とする。この場合の各委員の任期については、指名委員会が定める。

(改訂)

なお、本細則は理事会で平成16年1月30日、平成１７年7月25日**および平成18年1月28日**に改訂された。

IBRO-APRCの活動

理化学研究所
脳科学総合研究センター
岡本 仁

IBRO (International Brain Research Organization) は、アジア太平洋地域の神経科学の振興を目的とするAPRC(Asia-Pacific Region Committee) を持っています。現在、委員長は、香港大学のYing Shing Chan教授で、その他、日本から津本神経科学会会長と私、オーストラリアから2人、イランから1人、インドから1人、台湾から1人という構成で成り立っています。

この委員会は、現在便宜的に、日本、中国、韓国、香港、台湾、タイ、ベトナムなどからなるグループAと、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、インド、イランなどからなるグループBから成り立っていますが、2つのグループは、ほとんどの場合、一緒に活動を行っています。

2006年はUS$175,000というかなり潤沢な予算を使って、主たる活動として以下のようなものを行う予定です。

1.IBRO Schoolの開催
約2週間にわたって、アジア太平洋地域の大学院レベルの学生を対象として、実験室での実地学習と講義を行う。2006年は、香港(11月28日から12月10日まで)とバンガロー(インド)(8月8日から12日まで)で開催される。

2. Associate Schoolの開催
学部学生を中心とした、神経科学の入門のための講義を中心としたコース。
2006年は、西安(4月5日から9日)とテヘラン(8月26日から30日)で開催される。また、ISN (International Society for Neurochemistry)と共催で、少し高いレベルのレクチャーコースを、シンガポールで開催する(6月26日から30日)。

3.Advance Schoolの開催
理研脳センターで、当該地域の若手研究者と欧米の研究者との交流を深めるワークショップを開催する。

4. 他のAdvance Shcoolへの参加援助
当該地域から理研脳センターとWoods Hole Marine Biology Laboratoryのサマースクールへの参加者への交通費援助を行う。

5. 当該地域内でのその他の学会出席や研究交流のための旅費の援助

委員長のChan教授は、大変な情熱でIBRO-APRCの運営にあたっておられ、そのおかげで、ここのところ、事業と予算の規模が、どちらも増加してきています。またそれに呼応して、参加する学生たちの熱意と優秀さも大変なものが有ります。日本神経科学会からも、これまでにもIBRO Schoolの講師として、多くの先生方が教育に携わっていただき、大きな貢献をしています。委員の一人として、深く感謝いたします。

また、日本神経科学会年会のトラベルアワードや、理研のサマースクールでの滞在費援助などは、APRCのマッチングファンドとして計算され、IBROへの予算申請の増額に貢献しています。

自分自身がAPRCの委員となってみて、アジア各国を訪れる機会が増えたのですが、はじめのうちは、オーストラリアやニュージーランドだけでなく、韓国、香港、中国、台湾、シンガポールなど私が訪れたどの国の大学でも、たいてい日本の大学を上回るかなり良い施設で、高水準の研究が行われており、日本との研究の質の差が、急速に縮んできていることを知って、自らの不明を深く恥じた覚えが有ります。

IBRO-APRCの様々な行事は、IBROのホームページ (http://www.ibro.info/)から検索が可能です。現在、各種スクールには、日本の学生は、ほとんどみられません。アジア、オセアニアの優れた学生さんたちと交流する大変良い機会ですので、ぜひ参加してみてほしいと願っています。

INFORMATION

シンポジウム・研究会

第１回 複合医工学シンポジウム
The First Symposium on Complex Medical Engineering (SCME2006)

＊日時＊平成18年5月19日(金)～20日(土)
＊会場＊芝蘭会館(京都大学医学部構内)
〒606-8501　京都市左京区吉田近衛町
電話：075-753-9336　FAX：075-753-9457

＊主催＊複合医工学インスティテュート
(Institute of Complex Medical Engineering: ICME)

＊特別講演＊
Denis Le Bihan
(Federative Research Institute of Functional Neuroimaging, France)
Robert Turner
(Institute of Neurology, University College London , UK)
河野憲二
(京都大学医学研究科認知行動脳科学)
Nicholas Franceschini
(Dept . Biorobotics, CNRS/Univ. de la Mediterranee , France)
川人光男
(ATR, 脳情報科学研究所)

＊一般演題募集テーマ＊

◇情報医工学
医学・医科学と人工知能、Web インテリジェンスと遠隔医療、医学知識ネットワークと運用管理
ｅ－サイエンス、医学データマインニング、福祉情報工学

◇認知神経科学と技術
非侵襲脳機能計測 ・医用画像計測(fMRI、PET、脳波、脳磁図、磁気刺激、近赤外光脳内血流計測等)と画像処理技術、認知神経科学・心理生理学・生理心理学と，その臨床応用、神経疾患と診断技術

◇バイオメディカル・ロボティクス＆バイオ・メカトロニクス
メディカル・ロボティクス、ナノ・マイクロバイオロボティクス

◇複合バーチャル医工学
マイクロ遠隔操作、遠隔手術、手術支援システム

◇複合 リハビリテーション技術
リハビリテーション・ロボティクス、神経学的リハビリテーション、在宅リハビリテーション、ｅ－ヘルスケア

◇複合バイオインフォマティックス
バイオモデリングと制御生物センサー、生物分析、生物統計学

＊SCME2006＊
実行委員長：福山秀直(京都大学)小林哲生(京都大学)
プログラム委員長：西川郁子(立命館大学)宮内哲(情報通信研究機構)

事務局
京都大学医学研究科高次脳機能総合研究センター
〒606-8507　京都市左京区聖護院川原町54
TEL: 075-751-3695FAX: 075-751-3202
Email:　scme2006@bpp2.kuhp.kyoto-u.ac.jp
ホームページ：
http://frontier.eng.kagawa-u.ac.jp/SCME2006/

神経組織の成長・再生・移植研究会 第21回学術集会

プログラム

＜午前の部＞
口演1(一般演題1-5)
シンポジウム1「神経再生の鍵を握る細胞と分子群」
　座長：木山博資(大阪市大)、中尾直之(和歌山県立医大)
1．ミエリン関連蛋白による軸索再生阻害の分子機構
　　山下俊英　(千葉大)
2．神経再生とプロテオグリカン
　　大平敦彦　(愛知県コロニー研)
3．マクロファージの分化とサブポピュレーション
　　竹屋元裕　(熊本大)
ランチョンセミナー「神経変性疾患の病態解明と新たな治療法開発の最前線」
　座長：出沢真理(京都大)、新郷哲郎(岡山大)
1.毒性球状βアミロイド凝集体アミロスフェロイド
　　特異的抗体によるアルツハイマー病患者脳の検証
　　星　美奈子　(三菱化学生命科学研)
2．パーキンソン病の病態と再生
　　望月秀樹　(順天堂大)

＜午後の部＞
特別講演
「神経系の形成と機能を制御する遺伝子の研究」
鍋島陽一(京都大)
ポスター発表

シンポジウム2「シナプス前部および後部の発達」
　座長：白尾智明(群馬大)、上口裕之(理研)
1．成長円錐内における蛋白新生の生理的意義
竹居光太郎(横浜市大)
2．神経活動依存的・非依存的な軸索の枝分かれ形成の制御機構
山本亘彦(大阪大)
3．アクチン細胞骨格から見たシナプス後部の発達
高橋秀人(群馬大)
4．足場蛋白から見たシナプス後部の発達
岡部繁男(東京医科歯科大)
口演2(一般演題6-10)

懇親会　(午後6時より)

日時：2006年5月27日(土)
　　午前9時～午後6時
場所：早稲田大学国際会議場
　　東京都新宿区西早稲田1-20-14　(Tel: 03-5286-1755　代表)
連絡先：世話人　堀江秀典(早稲田大学先端バイオ研究所)
Tel:0424-61-1275、
E-mail: s.nakajima@kurenai.waseda.jp

第43回 千里ライフサイエンス技術講習会

「3色可視化細胞のライブイメージング－セットアップから動画解析まで－」

日時・場所：

平成18年6月15日(木)10時～15時(基礎コース)

　千里ライフサイエンスセンタービル　6階千里ルーム

平成18年6月16日(金)10時～15時(応用コース)

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

ねらい：コーディネーターは、既にシアン、

緑、赤の蛍光タンパク質(CFP, GFP, DsRed)を用いて核クロマチン、紡錘体様構造、核膜周縁を可視化した哺乳動物培養細胞株(MDA435)を作製し、生きたまま動態を観察することに成功している。講習会ではこの3色可視化細胞のG2から分裂期を経てG1初期までに至る過程をタイムラプス観察するための解析システムのセットアップから画像の取得、得られたデータを基にした立体動画作製までの技術を紹介する。

コーディネーター：杉本憲治(大阪府立大学大学院　教授)

プログラム：

1．基礎コース：システムのセットアップと画像の取得と解析方法の解説を中心とし、機器操作などの簡単な実習も交える。

2．応用コース：生きた細胞を実際に用いたマルチカラーライブイメージングの実習を少人数で行う。

講師：Ken Salisbury(Improvision社)、戸村道夫(理化学研究所)、杉本憲治(大阪府立大学)、坂牛真司(大阪府立大学)

定員：基礎コース　30名　応用コース　10名(基礎コース受講者を優先する。)

参加費：5千円(2日間参加される場合は1万円)

申込締切：平成18年5月31日(水)(財団必着)。但し、定員を超過した場合は参加者の調整をさせていただきます。

申込方法：次の(1)と(2)を明記の上、FAXまたはE-mailで下記宛お申込みください。(1)氏名、所属、役職名または学年、郵便番号、所在地、電話、FAX番号。(2)参加希望コース。申込締切後、参加いただく方に参加費の振込先口座番号をお知らせいたしますので、そこに参加費をお振込みください。入金を確認次第、領収書兼参加証をお届けいたします。

主催：(財)千里ライフサイエンス振興財団
共催：大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

協賛：(株)コーガク、オックスフォード・インストゥルメンツ(株)、横河電機(株)、Chroma Technology Corp.

問合先:(財)千里ライフサイエンス振興財団
村上和久

〒560-0082　大阪府豊中市新千里東町1-4-2、TEL:06-6873-2001, FAX:06-6873-2002, E-mail:sng-lsf@senri-lc.co.jp
URL:http://www.senri-lc.co.jp

CNS＊06 計算神経科学学会 開催のお知らせ

1．日時　　2006年7月16～20日
2．場所　　Edinburgh, UK
3．参加申し込み・問い合わせ　http://www.cnsorg.org/cns_meeting.htm
4．主催　　Organization for Computational Neuroscience

The International Computational Neuroscience Meetingが、7月に英国スコットランドのエジンバラで開催されます。CNSは今年で15回目となる学会で、例年2～3百程度の演題がsingle-track oralとposterで発表されます。神経科学の計算論にフォーカスした学会で、実験・モデル・理論的アプローチの論文が集まります。論文の審査基準として、生物学対応があげられているのが特徴で、神経科学学会の皆様にも興味深い学会と存じます。審査で高成績だった論文は、Neurocomputing誌にresearch articleとして掲載される予定です。詳細については上記web siteをご覧下さい。(筑波大学大学院システム情報工学研究科　酒井宏, Member, CNSO Board of Directors)

「第8回国際神経免疫学会」のお知らせ

会期： 平成18年10月15日(日)～19日(木)
会場：名古屋国際会議場
〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-1
TEL：052-683-7711(代表)
会長： 田平 武(国立長寿医療センター研究所 所長)
プログラム：

Plenary symposia(PS), concurrent symposia (CS) and workshops(WS) will be scheduled during the congress period. Oral presentation(WS) will be chosen from submitted abstracts. We will also take plenty of time for poster presentation and discussion. Plenary lecturers will cover the hot topics in neuroimmunology. Since we have many good basic immunologists in Japan, we will invite several top scientists in basic immunology. A full day teaching course of neuroimmunology will be scheduled on the preceding day of the opening ceremony. Symposia(PS and CS) and workshops will deal with:

Autoimmune diseases
Immunoregulatory mechanism
New therapeutic strategies
Immunology in infectious diseases
NK/NKT cells and innate immunity
Immunology in neurodegenerative diseases

Psychoneuroimmunology
Neuroimmunology and brain tumors
Development, regeneration and immunology

Special Topics
Alzheimer's disease and vaccination therapy
Asian type MS and HAM/TSP
Guillain-Barre syndrome and anti-ganglioside antibodies
CIDP: pathogenesis and treatment
Myelin regeneration
Apheresis
TLRs and disorders
Transplantation strategies

演題募集期間： 平成18年1月20日(金)～平成18年3月15日(金)
詳しくはホームページをご覧下さい(http://www.isni2006.org/)。
問い合わせ先：
第8回国際神経免疫学会事務局
474-8511 愛知県大府市森岡町源吾36－3
国立長寿医療センター 研究所長室内
TEL: 0562-45-0183(研究所長)、0562-46-2311 内線5003
ダイヤルイン:0562-44-5651～3 内線5003
FAX: 0562-45-0184
e-mail: isni2006@nils.go.jp

第4回アジア視覚学会のお知らせ 4th Asian Conference on Vision (ACV2006)

会期：平成18年7月29日(土)～8月1日(火)
会場：島根県松江市くにびきメッセ(http://www.kunibikimesse.jp/en/index.html)
会長：佐藤隆夫(東京大学大学院 人文社会系研究科教授)

概要：

The Fourth Asian Conference on Vision will be held in Matsue, Japan, on July 28 to August 1, 2006. The conference aims to facilitate debates on Vision Research in Asian and Oceania regions, while participants from all over the world are also welcome. The program consists of invited lectures, symposia and contributed papers. Original works for the papers on all aspects of Vision Research are invited to present.

スケジュール
July 28 Welcome Reception (evening)
July 29 First day of conference
July 30 Second day of conference, Banquet
July 31 Third day of conference
August 1 Excursion

スコープ：
Papers are solicited in all areas of vision research, including but not limited to:
*Visual Perception, Depth and Spatial Vision, Motion, Color Vision, Visual Attention, Visual Memory, Visual Cognition, Eye Movements, Vision and Action, Vection, Color Space and Colorimetry,
*Visual Neuroscience, Retina, Cortex, Visual Pigments and Visual Transduction, Retinal Proteins,, Development and Plasticity, Striate Cortex, Extrastriate Cortex, Superior Colliculus, Visual Thalamus,
*Computational Vision, Applied Vision, Visual Information Systems, Visual Interface, Virtual Reality,
*Physiological Optics, Low Vision, Clinical Vision Studies, Neural Imaging of Visual System, Vision and Other Modalities

プログラム：

招待講演
Rudiger Von Der Heydt (Johns Hopkins Univ., USA)
"Figure-ground organization and selective attention. Neural signals in monkey visual cortex (tentative)"
Shigang He (Chinese Academy of Sciences, China)
"Maturation of ganglion cells and neuronal circuitry in the mouse retina (tentative)"
John D. Mollon (University of Cambridge, UK)
*Human perception of colour: an evolutionary perspective

シンポジウム
"Neural bases of central visual perception"
"Color vision - From molecule to perception"
"Saccade and perception"
"Attention and visual search"
"Functional organization of early visual system"

口頭発表、ポスター発表
Submissions of original papers on all aspects of vision research are welcome. Each abstract will be reviewed by Program Committee, and the accepted papers will be assigned to poster or oral sessions. These abstracts will be published in Abstract Book of ACV2006 at the conference.

抄録締めきり: 平成１８年３月31日

詳しくは学会ホームページ(http://wwwsoc.nii.ac.jp/vsj2/acv2006/)を御覧下さい。

問い合わせ先:
実行委員長：内川恵二(東京工業大学理工学研究科教授)
Tel: +81-45-924-5453
Fax: +81-45-924-5290
E-mail: acv2006@isl.titech.ac.jp

研究助成

第6回(平成18年度) 財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞 候補者募集

1．授賞対象分野
(1)「材料」 (2)「半導体及び半導体装置」 (3)「計測評価」 (4)「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」
2．授賞対象者:詳細は下記請求先へお問い合わせ下さるか、ホームページをご覧下さい。
(1)授賞対象は、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた業績を上げている人(複数人も可)とします。
(2)受賞候補者の国籍は問わず、日本国内において業績を上げた人を授賞対象とします。
(3)過去に応募されたことのある人でも再応募可能です。
3．顕彰:各分野それぞれに賞状及び副賞(18金メダル・賞金300万円)を贈呈します。
4．募集期間:平成18年2月1日から4月30日(必着)
5．推薦書請求先、提出先:
〒157-0067　東京都世田谷区喜多見1-18-6
財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局
TEL: 03‐3415‐2200 FAX: 03‐3415‐5987 E-mail: prize@mst.or.jp
URL: http://www.mst.or.jp/prize/

公益信託成茂神経科学研究助成基金 2006年度応募者募集のお知らせ

当基金は、下記募集要項により本年度応募者を募集致します。

記

[募 集 要 項]
1．助成対象
(1)　神経科学の研究に対する研究費の補助、奨励金の交付。
助成金額:1件あたり30～50万円程度
(2)　神経科学に関する海外の学会に参加・発表するための渡航費の補助
(対象　平成18年7月～平成19年6月までに開催される海外での学会)
助成金額:1件あたり10～20万円程度
(3)　神経科学に関する講演会・研究集会等の開催、外国学者の招聘又は論文発表、図書の刊行等に対する費用の補助。
助成金額:1件あたり20～30万円程度

2．応募資格
(1)　国内の研究機関に所属する研究者とします。学部生・大学院生は対象外とする。
(2)　若手研究者(40才以下)を優先する。
(3)　申込は一人1対象項目とする。

3．応募期限　2006年5月26日(必着)

4．応募要項請求先
応募要領及び申込書は、返信用封筒(長形3号、90円切手貼付)を同封の上、下記宛請求、もしくは下記アドレスにEメールで請求して下さい。
公益信託 成茂神経科学研究助成基金事務局
〒100-8212　東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行ﾘﾃｰﾙ受託業務部
公益信託グループ
E-mail:kenji_koganezawa@tr.mufg.jp

Ⅰ．東レ科学技術賞

1．候補者の対象：貴学協会が関与する分野で、下記に該当するもの
(1)学術上の業績が顕著なもの
(2)学術上重要な発見をしたもの
(3)重要な発明をして、その効果が大きいもの

(4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2．科学技術：2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円
3．候補者推薦件数：1学協会から2件以内
4．推薦締切期日：平成18年10月10日(火)弊会必着
5．日本神経科学学会学会の推薦を希望される方は規定の用紙に必要事項を記入し、平成18年9月11日(月)までに事務局(〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F　日本神経科学学会　山根慶子)にお送り下さい。

Ⅱ．東レ科学技術研究助成

1．候補者の対象：貴学協会が関与する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的基礎研究に従事しており、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45才以下)
2．研究助成金：総額1億3千万円。1件3千万円程度まで 10件程度。
3．候補者推薦件数：1学協会から2件以内
4．推薦締切期日：平成18年10月10日(火)弊会必着
5．日本神経科学学会学会の推薦を希望される方は規定の用紙に必要事項を記入し、平成18年9月11日(月)までに事務局(〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F　日本神経科学学会　山根慶子)にお送り下さい。

＊ 各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます(6月中旬より)。
ＵＲＬ:http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

公　　募

東北大学大学院 生命科学研究科 教授の公募

分野　発生生物学
職名　教授1名
機関名　東北大学
部署名　大学院生命科学研究科生命機能科学専攻、細胞機能構築統御学講座
勤務地　仙台市青葉区荒巻字青葉山
募集期間　2006年5月1日まで(必着)
着任時期　2007年4月1日
応募書類　履歴書、研究業績リスト(原著論文、総説、著書等に分類)、論文別刷りまたはコピー10編以内(うち主要論文5編の研究内容の解説、5編あわせて1000字程度)、従来の研究内容(1500字程度)、赴任後の研究および教育計画(1500字程度)、過去5年間の研究費採択状況、応募者について問い合わせのできる方の氏名と連絡先(2名以上)、その他(受賞、招待講演、シンポジウム等の主催、学術雑誌の編集委員、学会役員など、参考となるもの)
書類送付先
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学大学院生命科学研究科
生命機能科学専攻教授選考委員会委員長
仲村春和
(封筒表面に「教員応募書類」と朱書し、簡易書留にて郵送のこと)
照会先　仲村春和　TEL: 022-717-8550
E-mail: nakamura@idac.tohoku.ac.jp
備考
・募集分野の現員構成
器官創製分野：教授　井出宏之(2007年3月退任予定)、助教授　田村宏治(本研究分野に助手の定員はありません)
・本大学院のほかに東北大学理学部生物学科を兼担
・国籍不問

詳細参照
本研究科ホームページ
http://www.lifesci.tohoku.ac.jp

日本学術振興会 特別研究員 RPD

―出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップ制度のお知らせ―

日本学術振興会特別研究員 -RPD- が創設されます。これは、優れた若手研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰する環境を整備するために、研究奨励金を一定期間支給し、研究活動再開を支援するものです。対象は平成 18 年 4 月 1 日から遡って過去 5 年以内に、出産又は子の養育のため、概ね 3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した博士の学位取得または取得見込み者です。平成 18 年度、19 年度分、それぞれ 30 名の採用を予定しています。詳しくはホームページ http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_boshu_f.html をご覧ください。

私も育児期間中は学術振興会の特別研究員制度でずいぶんと助けられました。この新しい制度が育児と研究の両立の一助となるように期待しています。

男女共同参画推進委員　国立遺伝学研究所
平田たつみ

その他

神経科学ニュースへの原稿を募集しています

求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内のほかにも、学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですので以下の要領でお送りください。
1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

a. 受付可能なファイル形式は Word、EG Word（11 以前）、KacisWriter です。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作製に用いたアプリケーションに関わらず HTML, rtf ファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。
b. 画像ファイルは PICT、JPEG または TIFF ファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。
c. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内に関しましては、A4 2 段組で刷り上がり 1/4 ページを単位として作製してください。なお、フォントは原則として、タイトルには 14 ポイント、本文には 10 ポイントをご使用ください。

2. 校正は行いません（お送りいただいたファイルをそのまま利用します）ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。
3. ニュースへの掲載は 1 回のみとさせていただきます。
4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学会のホームページにも掲載します。記事の長さに制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただく場合があります。
5. 他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。
6. 締切は通例偶数月の月末 25 日ですが、都

合により変動することがあります。
7. 掲載料は不要です。
8. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。
news@jnss.org（担当　白尾智明）宛お送りください。

編集後記

平成１８年も早くも３月に入り、大学では年度末を迎えて、入試を始め種々の業務で大変な季節だと思います。本学会でも理事会が開催され、２００５年度の会計報告や各種委員会報告等が行われました。詳しい議事録が今月号のニュースに載っています。若い方にはあまり魅力的でない記事かもしれませんが、学会情報誌としての神経科学ニュースの役割を考えますと、理事会議事録は非常に重要なものなので、ぜひ一読して頂きたいと思います。

特に今月号では、国際理事の岡本先生にIBROのアジア太平洋地域委員会（APRC）の活動に関する詳しい記事を書いて頂きました。アジア地域における種々の神経科学教育活動が思った以上に盛んに行われていることを知るとともに、理研脳センターが重要な役割を果たしていることがわかりました。最近、大学でもアジア地域との連携を想定した「国際化」が盛んに叫ばれており、いくつかの大学ではアジア地域における研究教育活動活性化に関するプロジェクトを持っているところもあるようです。このような大学の活力を有効利用できるようになれば、日本のアジア太平洋地域における貢献度を上げる一助になるかもしれないと思いました。

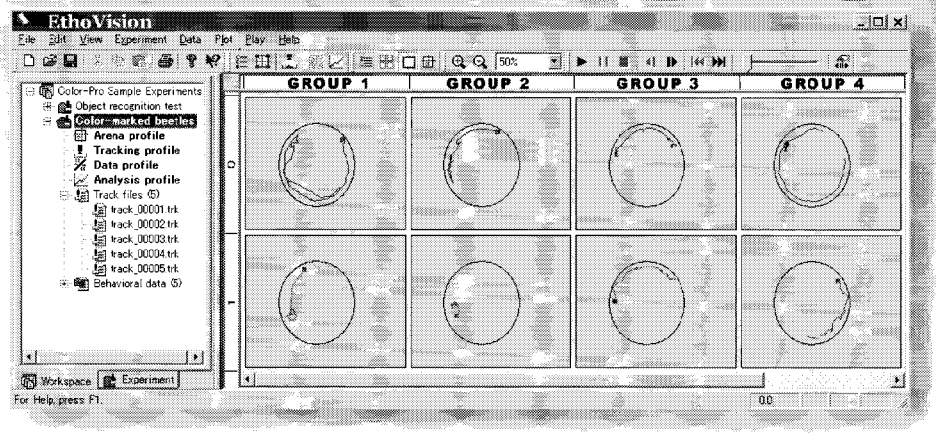
このように、理事会議事録をお読みになって「××委員会に関してはもっと詳しい報告が聞きたい」とか、「××の報告に関して私の意見を発表したい」というようなご要望がありましたら、次号で記事を載せることができるように努力させて頂きますので、ぜひ編者のところまでご連絡ください。（白尾記）

発行：広報委員会
狩野方伸（委員長）
白尾智明（ニュース編集小委員会委員長）
真鍋俊也（電子化推進小委員会委員長）
柚﨑通介（ホームページ担当小委員会委員長）

ノルダス

自動行動追跡・解析用ビデオ・トラッキング・システム

エソビジョン3.0



エソビジョンはこんな装置です

◇例えば16個並べたケージにそれぞれ2匹ずつのラットを入れ、その32匹のすべてを追跡したい…。
エソビジョンはこんな実験にパーフェクトに対応するビデオ・トラッキング・システムです。各個体の移動距離・速度、軌跡の形状、特定エリアでの滞在頻度・時間、レイテンシーなどの解析はもちろん、ソーシャル・インタラクションとして接近、回避、各個体間距離まで解析します。特に「数をこなさねばならない実験ルーティン」を力強くサポート。煩雑な作業はすべて自動化できます（上記はすべてエソビジョン・プロの仕様です）。

◇ケージはもちろん、プラスメイズ、ラジアルメイズ、ウォーターメイズ、オープンフィールド等すべての実験系に1台で完全対応します。主要な実験系には、サンプル・プロトコルを標準装備。ビギナーの方でもすぐにルーティンで使いこなせます。

さらに、格段に進歩した「バージョン3.0」では…

MPEGをはじめとするメディアファイルを映像ソースとして利用可能。これには実に多くのメリットがあります。

例えばDVDには最長で5時間もの映像を保存することができます。しかも映像のアクセスはほとんど瞬時。従来のテープ類に較べ、使い勝手・保存性で圧倒的に優れています。

メディアファイルを使用すれば、「早送りデータ取得」が可能になります。しかもテープのように時間情報が失われることはありません。パワフルなPCを使用すれば、例えば連続24時間分のデータを数時間で取得完了。

*1. エソビジョンの完全な機能実現にはUSBキーが必要ですが、これがなくても「データ取得」以外のすべての機能を使用することができます。

さらにあります。従来、必須だったA/D変換ボードが不要です。これは、ノートパソコンでもデータの取得が可能、という画期的な事実を示します。

ノートが使える。しかもエソビジョン自体にコピー制限はありません*1。そしてエソビジョンは、1つの実験プロジェクトの内容をたった一つのファイルに格納することができます。これを例えばネットワーク上に置けば、メイン・システムの所在に拘束されることなくどこでもデータの取得・解析が可能と言うことです。さらに複数のPCで解析を分担、などの離れ業も。

1台で、複数台の活躍。エソビジョンは、次世代の実験形態を先取りします

まだまだあります。従来からご要望の高かった、TTLパルス・ジェネレート機能を追加。例えばラットが特定エリアに入ったとき、フィーダを起動させるためのトリガパルスを出力できます。

従来はどうしても観察者の手を借りねばならなかった強制水泳実験。しかしエソビジョン3.0は独自のアルゴリズムを採用し、ラットのボディサーフェスの変化から「静・動」を自動判別し、カウントします。

詳しい資料のご請求・デモンストレーション等をご相談ください。

ノルダス社日本総代理店

ショーシンEM株式会社

〒444-0241 愛知県岡崎市赤渋町蔵西 1−14
TEL：0564−54−1231　FAX：0564−54−3207
www.shoshinEM.com　info@shoshinEM.com

生細胞・組織レベルでの遺伝子発現を発光イメージングで測定！

AEQUORIA（エクオリア）は、ルシフェラーゼなどのルミネッセンスを利用したプローブを用いて
細胞レベル・組織レベル・個体レベルでの発光をイメージングすることができます。
検出器には、高感度CCDカメラを各種ラインアップし、極めて高感度での発光検出が可能です。
顕微鏡レベルの発光イメージング、マクロレベルの発光イメージングに対応します。

応用
- 全ウエル同時測定の発光プレートリーダーとして
- ルシフェラーゼを用いた時計遺伝子の研究
- ルシフェラーゼ遺伝子を用いた細胞内遺伝子発現イメージング
- ＡＴＰの測定（ルシフェリン＝ルシフェラーゼ発光）
- エクオリンを用いた細胞内カルシウムイメージング
- ウミホタルルシフェリン誘導体などの発光基質を用いた活性酸素イメージング

New from Hamamatsu

ルミネッセンスイメージングシステム　AEQUORIA（エクオリア）

浜松ホトニクス株式会社　www.hamamatsu.com

システム事業部　特機営業部　〒430-8587　浜松市砂山町325-6　TEL（053）452-2148　E-mail　salesi@sys.hpk.co.jp
東京支店（03）3436-0491　　大阪営業所（06）6271-0441　　仙台営業所（022）267-0121

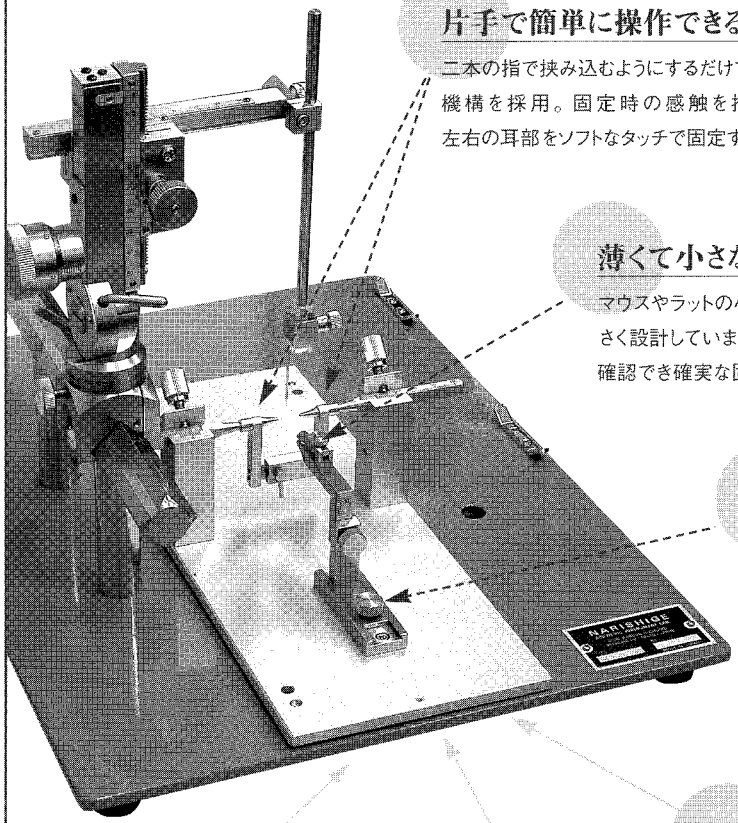
製品紹介Webサイト ＞＞＞　jp.hamamatsu.com

最新カタログをPDFデータで掲載しています。
ぜひ、アクセス・ダウンロードしてください。

NARISHIGE JAPAN **NARISHIGE**

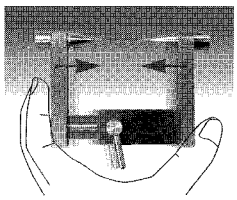
Electro-physiology

簡単に。確実に。ソフトに。
NARISHIGEの固定装置へのこだわり



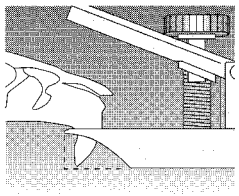
片手で簡単に操作できる補助イヤバー

二本の指で挟み込むようにするだけで滑らかに動作するアリ機構を採用。固定時の感触を指先で確かめながら、左右の耳部をソフトなタッチで固定することができます。



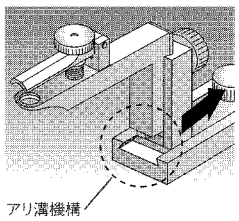
薄くて小さな口金具

マウスやラットの小さな口部に合わせて口金部を薄く、小さく設計しています。歯が固定されている様子が容易に確認でき確実な固定をサポートします。



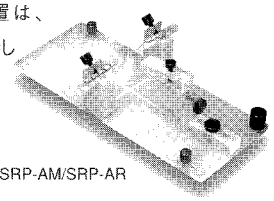
滑らかに動作する位置調整機能

口鼻金具の位置調整はアリ溝機構を採用し、きわめて滑らかに動作します。口鼻金具を引っ張る時の微細な感触が手に伝わってくるので、誤って歯を折ってしまったり、外れてしまう心配が少なくなります。



MRIに対応した頭部固定装置

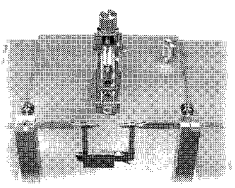
100%プラスティックの頭部固定装置は、ナリシゲのSRシリーズと高い互換性を維持しました。脳定位固定に加え、これからMRI測定も行いたいという方に最適です。



SRP-AM/SRP-AR

新生ラットからマウスまでの微細調整機構

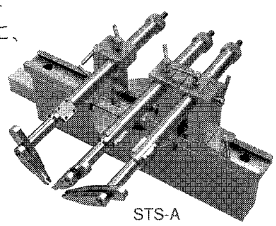
従来固定が難しかった新生ラットを安全に固定する、細部の微細な調整機構を装備した頭部固定装置を開発しました。SRシリーズとの高い互換性を維持しています。



SRS-A

デリケートな脊髄をソフトにクランプ

壊れやすく脆い脊髄を安全にクランプするために、手の力加減で微細な調整が可能。ソフトなクランプはマウスやラット新生児にも有効です。



STS-A

詳しくは当社担当までお問い合せください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 http://www.narishige.co.jp

株式会社成茂科学器械研究所

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03 -3308-8233 FAX.03-3308-2005 e-mail: sales@narishige.co.jp